

内分泌攪乱化学物質に関する日英共同研究について

1 経緯

- 1999年3月に開催されたG8環境大臣会合において、真鍋前環境庁長官と英国ミーチャー環境大臣が会談し、両国において関心の高い環境問題である環境ホルモン問題について、共同研究を実施することが合意された。
- これを受けて1999年12月に、英国環境運輸地域省の行政官及び関連分野の研究者が来日し、共同研究の実施取極が締結された。

2 日英共同研究に関する実施取極の概要

○ 目的

内分泌攪乱化学物質に関する科学情報の交換及び共同研究活動の発展のための条件を提供すること。

○ 研究のテーマ

- ・ 野生生物へのリスクを評価する手法の開発
- ・ 内分泌攪乱化学物質の環境中挙動の推定
- ・ 海洋生物と淡水生物の異常に関する研究の比較分析
- ・ 英国及び日本における野生生物への環境リスクの比較分析

○ 期間

5年間

3 成果等

1999年12月に神戸市において第1回ワークショップが、2001年1月に英国プリマスにおいて第2回が、2001年12月につくば市において第3回が、2003年4月に英国ヨーク市で第4回が催され、共同研究の成果が発表されるとともに、両国での研究の現状に関する情報交換が行われた。

内分泌攪乱化学物質に関する日韓共同研究について

1 経緯

- 1998年10月、金大中大統領夫妻が、日本国国賓として日本を公式訪問した際に、小渕恵三日本国総理大臣との間で会談を行い、日韓共同宣言(21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ)を発表。この中で地球規模問題に関する協力強化の項目の一つとして、内分泌攪乱化学物質についての共同調査および研究を開始することとなった。
- これを受けて1999年10月に日本国国立環境研究所と韓国国立環境研究院との間で研究所間の実施取極が締結され、同取極に基づいてワークショップの開催等により情報交換等が進められてきた。
- また、2001年4月には川口順子日本国環境大臣と金明子韓国環境部長官との間で実施取り決めの署名が行われた。

2 日韓共同研究に関する実施取極の概要

○ 研究のテーマ

- ・ 化学物質の環境中及び野生生物中の残留レベルの調査
- ・ 化学物質が起こしうる生態毒性及び生態系への影響のレベルを評価するための基礎研究の実施
- ・ 化学物質による野生生物へのリスクを評価する方法の開発
- ・ 日本及び韓国における環境リスクの比較分析
- ・ ダイオキシン類及びPCBの排出量目録に関する研究

○ 期間

5年間

3 成果等

2001年12月に韓国において第1回ワークショップが、2002年12月につくば市において第2回が開催され、共同研究の成果が発表されるとともに、両国での研究の現状に関する情報交換が行われた。2003年は韓国で第3回ワークショップを開催予定。